

1	公開授業実施日時	2019年2月27日（水）10:00～12:00
2	場所	京都教育大学附属特別支援学校 小学部1組教室
3	対象	小学部1組 6名（1年生3名，2年生3名）
4	授業者	平元 妙佳（MT）・中川 宣子（T2）・北田 恵那（T3）
5	島名	プレ・グローバル
6	単元名	「つくって食べよう！アジアごはん！」～ブータン編～
7	関連する教科・領域	合わせた指導。特定の教科として実施していない。
8	単元の目標・ねらい	特別支援教育における小学部低学年段階においては、自立活動を基本としているが、子どもたちの興味・関心の幅は日を増すごとに広がってきている。身近である「食」をテーマに自国の文化と他国の文化を学ぶことによって、さらに興味・関心の幅が広がってほしい。
9	グローバル・スタディーズとしての目標・ねらい	現代のグローバル化社会は、様々なものや情報が飛び交い、他国の人と交流する機会も増えている。この数十年で私たちの生活そのものも大きく変化していると言える。この劇的に変化していく社会に対して、それに対応できる人材を育成していかなければならない。身近で理解しやすいテーマ設定のもと、異文化を実際に肌に触れて感じられるようにしていく。
10	単元の評価規準【教科・領域として】	自分で食べて美味しかった、人に食べてもらって褒められたという経験を通して、「また次も作りたい」「もっと、食べたい」といった、食への関心や食べることへの意欲を高めることができたかどうか。
11	単元の評価規準【グローバル・スタディーズとして】	日本を含むアジアの料理を実際につくって食べる経験を通して、自国や他国の食文化の共通点や違いを知ることができたかどうか。
12	単元計画	第1次 日本の料理を作ろう！食べよう！（2時間）1・2／2（本時） 第2次 食べて知ろう！アジアのご飯とその文化（8時間） ※1回2時間設定。 ①韓国 ②中国 ③タイ ④ブータン
13	本時の目標	○ブータンに関するゲームに参加したり、ブータンの代表的な料理を作り、食べたりすることでブータンの食文化について知る。 ○料理を作って食べたり食べてもらったりすることで、また調理実習をしたいと思える。
14	本時の展開	≪別紙指導案を参照≫
15	グローバル・スタディーズとしての特徴	本授業は単なる「調理実習」ではなく、アジア地域で食べられている伝統料理を作るところに重点をおいたものである。授業毎にフォーカスしている国が違い、その国の挨拶や伝統・文化を知る時間を設定しているところに特徴がある。

16 授業者から一言	本題材では、小学部1年生・2年生を対象に「世界の食」について学習する機会を設定した。この授業を行ったことで、日本以外の「国」に対する興味関心が広がっていると感じさせる姿や、食べたことのない料理でも自ら食べようとする姿が見られるようになった。
------------	--

小学部1組 「生活」学習指導案

指導者 ◎平元 妙佳 (MT)

中川 宣子 (T2)

北田 恵那 (T3)

- 1, 対象 小学部1組 6名(1年生 3名, 2年生 3名)
- 2, 日時 平成31年2月27日(水) 2~3校時(10:00~12:00)
- 3, 場所 小学部1組教室
- 4, 題材名 「つくって食べよう! アジアごはん!」~ブータン編~
- 5, 題材の目標 ○日本を含むアジアの料理を実際につくり、食べる経験を通して、自国や他国の文化を知る。
○自分で食べて美味しかった、人に食べてもらって褒められたという経験を通して、食への関心や食べることへの意欲を高める。
- 6, グローバルスタディーズとしての目標(めあて)
○日本を含むアジアの料理を実際につくって食べる経験を通して、自国や他国の食文化の共通点や違いを知る。
- 7, 題材について

【本校における本題材の位置付け】

本題材は、京都教育大学との連携プロジェクトである「グローバル人材育成プロジェクト」の一環として行う授業である。本大学では平成28年度から教科横断的な独自領域として「グローバル・スタディーズの領域のカリキュラム開発」を進めており、この領域は具体的には3つの単元群(グローバル・イシュー、グローバル・エシックス、グローバル・ヒストリー)に分けられる。本題材では「グローバル・ヒストリー」の単元に注目し、身近で理解しやすいテーマ設定のもと、異文化を実際に肌に触れて感じられるようにしていく。

小学部低学年段階においては、日本の文化や歴史、他の国の文化に触れる機会は浅く、それらについて意識する子どもも少ない。特に、特別支援教育における小学部低学年段階においては、自立活動を基本とし「衣・食・住」に関わる活動(着替え・排泄・食事など)をメインとしている。しかし、子どもたちの興味・関心の幅は日を増すごとに広がってきており、遊びや人との関わりを通して学んでいることがたくさんある。

現代のグローバル化社会は、様々なものや情報が飛び交い、他国の人と交流する機会も増えている。この数十年で私たちの生活そのものも大きく変化していると言える。この劇的に変化していく社会に対して、それに対応できる人材を育成していかなければならない。今、新たなものへの出会いに興味・関心をもてるようになってきた小学部低学年の段階で、身近である「食」をテーマにした自国の文化と他国の文化を学ぶことは大切な機会である。本題材を通して、さらに興味・関心の幅を広げていって欲しい。

【児童観】

小学部1組は、1年生3名と2年生3名の構成になっている。1年生はやっと学校生活にも慣れ、自分の好きな場所ができたり、指導者と関わりがもてたりできるようになってきた。2年生は、4月当初は環境の変化に戸惑っていたものの、自分たちが2年生になったということを実感し「自分でやる!」という意識が少しずつついてきている。

環境が変わると落ち着かなくなる児童が多いが、比較的教室の中では落ち着いて過ごすことができている。クラスの友達と一緒にペアを組んで活動することも少しずつではあるが、できるようになってきた。

4月当初は偏食の児童も多く、白ごはんだけを食べる児童や、好きなもの以外全く手をつけないという児童も多かった。「意外と食べてみると美味しかった」「苦手なものを食べたら、好きなおかずのお代わりがもらえた」という経験を通して、給食を全部食べられるようになった児童もいる。

「食べる日」での調理実習や、宿泊学習が中止になった振替の授業での「カレー作り」を通して、自分で料理を作ることへの関心が高い児童が多いことが分かった。基本的には材料を「ちぎる」活動が主であったが、中には包丁やピーラーを丁寧に扱うことができる児童もおり、家でも料理の手伝いをする事ができている。しかし、中には料理や食そのものに対して関心が低かったり、授業のルーティンを確立しないと参加が難しい児童もいたりする。本題材の5回の授業を通して、安心できる仲間と環境の中で、少しでも「食」への関心を持ち、授業の中で新たなものに出会うことを楽しんでもらいたいと思う。

【題材観】

生活の基本となる「衣・食・住」の中で、本クラスの児童にとって「食」は一番身近なテーマであり、これからの成長には欠かせないものである。1学期から調理実習は何度か行ってきたが、自分で作って食べるという学習を通して、少しずつ食べられるものの幅が広がっているように思う。特に、「簡単に作ることができて美味しい料理」は、子どもたちの「できた」という実感とともに、「また食べたい」という意欲につながる。安心できる友だちや指導者と一緒に、楽しく調理活動することによって「食」に対する意識を高めていきたい。さらに、自分の作ったものを他クラスの友だちや指導者に食べてもらい、褒めてもらうことで「また作りたい」という意欲を高めたい。

本題材では、日本を含む5つの国（日本、韓国、中国、タイ、ブータン）の食文化に触れる。近年、日本では様々な国の料理を簡単に作ったり食べたりできるようになってきた。しかし、実際に子どもたちがその文化に触れる機会や、料理を食べる機会は少ない。同じアジア圏内の国でも、その食形態は様々である。この5つの国の料理は、日本と共通点はあるながらも異なった点も多い国々である。

各国の代表的な料理であり、且つ子どもたちが作りやすいもの・食べやすいものを考えた結果、

「日本…巻き寿司」「中国…餃子」「韓国…チヂミ」「タイ…ガパオライス」「ブータン…ダツィ

(チー

ズ)料理」を本題材で作ることとした。これまでに食べたことのある料理でも、実際の現地での食べ方や食事のマナーは知らないことが多い。日本の「いただきます。」「ごちそうさま。」という習慣が他の国ではなかったり、箸を使わない国も多々あったりする。そういった文化の違いも、子どもたちと一緒に楽しみながら活動できればと思う。

【指導観】

授業の最初には、各国についての紹介やゲームを行うことで、楽しくその国の文化を学べるようにする。できるだけ、その国と日本との違いがわかるように「間違い探し」や「ooはどこ？」を中心にしたゲームをしていきたい。初回の授業では、より日本を知るために日本に特化したゲームを中心に行っていく。

調理実習では、できるだけ子どもたちが互いの様子を見ながら、楽しんで作れる環境を設定する。基本的にはいつも組んでいる2人1組のペアで活動するが、互いに活動の様子を見合えるように場を設定する。

下ごしらえをする際には、子どもの実態に合わせて包丁を使う・手でちぎるなどの役割分担をする。本授業では、調理のスキルを上げることを目的にはしていないため、今現在の子どもたちができることを中心にして各グループでの役割分担をしたい。

料理を作っていく際には、最初に指導者(MT)が見本を見せて活動の見通しを持たせる。全員で指導者を囲んで見本を見て、口々に見たものの状態や感想を言うことによって、和気藹々とした雰囲気の中で活動ができ、自分の気づかなかったことに気づくことができると考える。その後は、各組みに分かれて料理を作っていく。料理をする際に、様々なトッピングなどの素材を用意しておき、子どもたちが自由に具材を選ぶことによって、楽しんで活動できるようにする。

作った料理を食べる際には、その国のマナーや文化を知るために、その国での食べ方や食具を使って食べる経験をする。その中で、「食べづらい・食べやすいの経験」や「なんで??」という疑問を通して、異文化を感じたり、日本の文化の良さに気づいたりできるようにしたい。

授業の最後には、他クラスにも作ったものを渡しに行き、他クラスの友だちや指導者から「ありがとう。」と言われる経験や「美味しかった。」と褒められる経験を通して、次の活動への意欲につなげていきたいと思う。

8. 題材計画(全10時間)

第一次 日本の料理を作ろう!食べよう!(2時間)1・2/2(本時)

第二次 食べて知ろう!アジアのご飯とその文化(8時間)※1回2時間設定。

① 韓国 ② 中国 ③ タイ ④ ブータン

9. 題材の個別目標

児童名	児童の様子	目標	手立て
A	<p>○言葉での指示はある程度分かるが、写真カードの方がより有効。友だちと関わる姿が少しずつ見られるようになってきており、気心の知れた友だちとなら、一緒に楽しんで活動ができる。自分が安心できない・落ち着かない時は、教室の隅から友だちの様子を見ていることが多い。</p> <p>○「食べる日」や調理実習の活動を通して、少しずつ食べることへの関心が高まっている。カツや豆、ハッシュドビーフなど、食べられなかったものが食べられるようになってきた。自分で食べようとする姿が見られはじめている。</p>	<p>○作るものがわかり、友だちと一緒に安心して活動する。</p> <p>○これまでに食べたことのないものを食べることに挑戦する。</p>	<p>○作るものが分かりやすいように、あらかじめ写真で提示する。</p> <p>○安心して活動できるように、活動場所は教室、クラスでの活動にする。</p> <p>○椅子に座ってられない時は、無理に座らせず、本人が活動するタイミングで言葉をかける。</p> <p>○作ったものを食べやすいように、本人が食べそうな具材（肉）を入れたり、好きな味付けにしておく。</p>
B	<p>○どんな活動でも積極的に取り組むことができる。友だちと一緒にゲームをして楽しむことができる。初めてすることにも興味を持ち、自ら知ろうとする。</p> <p>○食べ物への好き嫌いはある（特に野菜）ものの、頑張っ食べようとする。自分で作ったものは、特に食べようとする姿が多く見られる。褒められることが大好き。</p>	<p>○友だちと一緒にゲームに楽しんで参加し、日本や他の国の文化を知る。</p> <p>○自分が作った料理を食べる・食べてもらう経験を通して、「食」への関心を高める。</p>	<p>○友だちと一緒に楽しめるように、「国旗ゲーム」や「oolはどっち？」など、簡単でみんなが参加できるゲームを行う。</p> <p>○他クラスの人から褒めてもらえるように、授業の最後に他クラスに料理を持っていくことを本人の役割にする。</p>

<p>C</p>	<p>○言葉や写真の意味をよく理解している。ひらがなも読み、並べ替えたりできるようになってきた。友だちとの関わりも増えてきて、要求言語も多く出てきている。視覚優位のところがあり、耳で聞くよりも目で見の方が理解しやすく、行動にうつりやすい。</p> <p>○調理実習が大好き。調理をすると、最後まで鍋や炊飯器の前から離れない。包丁が使い、カレーの作り方やご飯の炊き方を知っている。お家でも、ご飯のお手伝いをしている。</p>	<p>○ゲームや調理活動を通して、日本や他の国のことを理解する。</p> <p>○楽しみながら、新しい料理を作ることに挑戦する。</p>	<p>○本人が理解しやすいように、国旗のカードの裏の国の名前を見せたり、パワーポイントで対象となる国の写真を見せたりする。</p> <p>○何を作るかが分かりやすいように、写真を見せる。</p> <p>○本人が好きな活動(包丁を使う活動)を取り入れ、本人の調理活動へのモチベーションを上げる。</p>
<p>D</p>	<p>○言葉をよく理解しており、ゲームなどに積極的に参加できる。指導者が提示するゲームの意味をよく理解し、友だちに説明することができる。国や地球儀などにも興味を示し、都道府県のパズルを何も見ずに組み立てることができる。</p> <p>○調理実習が好き。包丁がある程度使える。「左手は猫の手。」という、意識して使うことができ、その状態で野菜などを切るができる。</p>	<p>○ゲームや調理活動を通して、日本や他の国について理解し、知る。</p> <p>○自分で料理を作る経験から、食べることや作ることへの意欲を高める。</p>	<p>○違いが分かりやすいように、「間違い探し」などのゲームをする。</p> <p>○日本と他の国のマナーや食べ方の違いを見せ、違いが分かりやすいようにする。</p> <p>○できるだけ自分で作れるように、本人が使いやすい型や調理器具を使う。</p>
<p>E</p>	<p>○間違い探しのゲームができる。ある程度の指示であれば、言葉だけで理解ができる(取</p>	<p>○他の国と日本との食文化の違いに興味や疑問をもち、考える。</p>	<p>○本人が興味を持ちやすいように、あえて「なんでかな? ooだから</p>

	<p>って。すわる。切るなど)。分からない時は、モジモジして分からないことをアピールする。友だちと一緒にゲームで盛り上がるのが好き。様々なことに興味関心があり「なんで?」「どうして?」と尋ねることが多い。</p> <p>○調理実習が好き。与えられた役割は最後までやるが、終わらせることに集中してしまうことがある。褒められることが好きなので、指導者につづつできたことを褒めてもらえると、活動が丁寧になる。</p>	<p>○指導者と一緒に活動の過程を楽しみながら調理活動をする。</p>	<p>かな?」などのやりとりをする。</p> <p>○本人が分かりやすいシンプルな「間違い探し」や「ooはどこ?」などのゲームを提示する。</p> <p>○本人のモチベーションを上げるために、一つ一つ本人ができたことを褒める。</p> <p>○本人が丁寧に活動できるように、まだ終わっていない部分を言葉で伝える。</p>
F	<p>○ゲームでお友だちや指導者と盛り上がるができる。身体を動かすよりも、カルタやおままごとなどの遊びが好き。ゲームの勝ち負けよりも、ゲームの内容を楽しむことができる。体調を崩しやすいため、様子を見ながら参加する。</p> <p>○調理実習が好き。好き嫌いはあるものの、食べることへの関心は高い。自分でやりたいという意識が強くなってきており、調理実習も自分で全部やろうとする。</p>	<p>○友だちや指導者とゲームを通して、楽しみながら日本や他の国の文化を学ぶ。</p> <p>○自分で作ったものを食べることで、食への関心や意欲を高める。</p>	<p>○本人が分かりやすい「間違い探し」や「国旗当てゲーム」などシンプルなゲームを提示する。</p> <p>○本人が楽しめるように、ゲーム時に「やったー!」と声を出すなど楽しい雰囲気を作る。</p> <p>○本人が食べやすいように、本人の好きな具材(肉)を入れておく。</p>

10. 本時の学習について

本時は、本題材の第5回目（最終回）の授業である。

第1回目の授業では、自国である「日本」の伝統料理である「巻き寿司」を作った。前半では、日本や巻き寿司に関する問題を出したり、ゲームをしたりして、楽しく日本について学習した。巻き寿司を作る際には日本独自の調理器具である「寿司桶」「巻き簀」「杓文字」などの道具を実際を使って、巻き寿司を作ることによって日本独自の食文化を知ることができた。子どもたちが巻き寿司を作りやすいように「押し型」を用意し、簡単に寿司飯を固めて作るなど、まだまだ手先が不器用な子ども達でもできるような工夫を凝らした。

第2回目の授業では、授業の前半のゲームでは日本の文化を振り返りながらも、「大韓民国」という国の文化について日本との相違点がわかる様に紹介した。「チヂミ」は日本でも韓国料理店ではおなじみの料理であり、比較的ふれる機会が多い。簡単に作ることができるお手軽料理であり、子どもたちにとっても作りやすいものであった。この授業で、今までニラを食べたことのない児童も「美味しい！」と言ってたくさんニラの入ったチヂミを食べることができており、食の広がりを感じさせられる授業となった。

第3回目の授業では、餃子の食べ比べを行った。日本では「焼き餃子」が中心とされているが、中国で一般的な餃子は「水餃子」である。2つの餃子を作り、自分たちで食べ比べをすることによって中国と日本の文化を感じることができた。「両方おいしい。」と言って完食する児童、「水餃子がいい。」という児童、中には偏食のために絶対に口に入れなかった児童が初めて作った餃子を食べたというケースもでてきた。餃子の型を使って、簡単に餃子を作ることができたことによって、家庭でも作ったという話も聞くことができた。

第4回目の授業ではタイの伝統料理（国民食）である「ガパオライス」をつくった。ガパオライスは、タイでは「カウパッガパオガイ」と呼ばれており、日本でいう「カレーライス」と同じぐらい馴染み深い料理である。日本でも、最近カフェ料理の定番として認知されるようになってきたが、まだまだ子どもたちは食べたことがない料理であり、ほとんどの児童がこの授業で初めてガパオライスを作った。バジルの香りが強い料理であったが、何度も「おかわり！」と言っている児童や、初めてピーマンやパプリカを食べることができた児童もいた。他クラスからも好評で、他のクラスの友だちや指導者から「もう一度食べたい！」と褒めてもらったことで、子どもたちの「作りたい」という意欲が高まっている。

これらのことを踏まえて、本時ではブータン王国の「ダツィ（チーズ）料理」に取り組みたいと思う。ブータンは中国とインドの間に位置し、平均の標高が2000Mもある山々から成る小国である。2011年にはブータンの国王が来日し、東日本大震災で傷ついたすべての人々へ国会議事堂から全国放送でスピーチをしたことで知られている。以降、ブータンと日本の関係は発展しつつある。近年、東京や京都にブータン料理店が開店し、気軽に食べることができるようになってきた。

ブータンは日本との文化の「違い」と「共通点」がたくさんあり、とても興味深い国である。ブー

タン人の顔は、日本人によく似ておりとても親近感が湧く。伝統や礼儀を重んじるブータン人の考え方は、日本人のもつ道徳心にも似ている。しかし、共通点はあるながらも食文化に関しては「手でスプーンで食べる」「基本の味付けが辛い」「(宗教上の理由で)ベジタリアンが多い」「胡坐、あるいは椅子に座って食べる」など、違いが多くある。また、現在のブータンの野菜は、日本の「西岡京治」氏が1968年から28年間かけて栽培方法や品種改良を行ったことによって、栽培・育成することができている。これらの事実や歴史も含めて、子どもたちに分かりやすく伝えられるようにしたい。

授業前半のゲームでは、ブータンの国や歴史に関して学び、ブータンと言う国を知ることができるようになる。指導者が実際のブータンの民族衣装を着て、ブータンの公用語(ゾンカ)での挨拶や自己紹介の仕方を伝えるとともに、ブータンの国に関してのゲームや日本とブータンの国との関りについて話をしていきたいと思う。調理実習では子どもたちが食べやすいような味付けと、好きな具材を考えた結果「ケワダツィ(ジャガイモのチーズ煮込み)」を作ることにした。ダツィ料理(チーズ煮込み料理)は、基本のご飯と一緒に食べることが多く、日本で言うところの「カレーライス」や「シチューオンライス」に近いものになる。活動時には、これまでも使ったことのある調理器具(ジュニア包丁やフードカッター)などを使って、安全面にも配慮しながら指導を行っていききたい。しかし、今回は調理器具の使い方を教えるのではなく、これまでに何度も使ったことのある調理器具を使って、友だちや指導者と一緒に楽しく調理活動を進めることを目的としている。子どもたちが楽しみながら活動できるような、和気藹々とした雰囲気の中で作りたい。料理を食べる際には、基本的にはスプーンを使用するようにする。手で食べる児童がいても注意せず、一緒に食べる時間を楽しみたい。普段、摂食指導などでスプーンや箸を使うように指導しているが、ブータンでは基本的には手で食べる習慣があることや、摂食指導のストレスから離れて、ただ食べることに集中する・楽しむ時間として、この時間を設定したいと思う。本時を通して、ブータンの国の食文化に触れ、食べることや作ることの楽しさを感じて欲しいと思う。

【ケワダツィの調理手順】

①	材料(鶏肉・トマト・ジャガイモ・玉ねぎ)をジュニア包丁やフードカッターで切る。
②	ホットプレートに油を敷いて、切った材料を炒める。
③	材料に火が十分に通ったら、牛乳・とろけるチーズを入れてしばらく煮込む。
④	塩コショウで味を調える。
⑤	完成

※本来であれば「唐辛子」を入れるが、今回は入れないようにする。

1 1, 本時の学習目標

○ブータンに関するゲームに参加したり、ブータンの代表的な料理を作り、食べたりすることでブータンの食文化について知る。

○料理を作って食べたり食べてもらったりすることで、また調理実習をしたいと思える。

1 2, 本時の個別目標

児童名	目標	手だて
A	○指導者と一緒に落ち着いて活動し、ゲームに参加したり、具材をフードカッターで切ったりする。 ○ケワダツィを口に含んだり、食べようとしたりする。	<ul style="list-style-type: none"> • 落ち着いて活動できるように、活動場所は教室で行う。 • 本人が使いやすいように、フードカッターは取っ手を引っ張るタイプのものを使用する。 • 本人が食べたいと思えるように、本人の好きな肉やごはんを見せるようにする。
B	○ゲームに自ら参加したり、調理活動を通してブータンの代表的な料理の名前を覚えたりする。 ○ケワダツィを食べてみようとする。 ○他クラスの友だちや指導者に、自分から作ったケワダツィを渡す。	<ul style="list-style-type: none"> • 本人が名前を憶えやすいように、何度も繰り返して言うようにする。 • 本人が食べたいと思えるように、本人の好きな肉を見せるようにする。 • 友だちに渡すことを、あらかじめ本人に頼んでおき、自分の役割として担えるようにしておく。
C	○自分から調理活動に参加しようとしたり、ゲームに参加したりしようとする。 ○作ったケワダツィを食べることを通して、ブータンの食文化を知る。	<ul style="list-style-type: none"> • 活動内容が分かりやすいように、これまでに取り組んできた「国旗あてゲーム」や「ooはどっち？」などのゲームをする。 • 本人が食べやすいように、具材を小さくしたり、好きな白ご飯を見せたりする。
D	○ゲームや調理活動を通して、「ブータン」という国の名前や「ダツィ」などの料理の名前を覚えたりする。 ○自分で作った料理を食べ、他クラスの友だちにも自分の作った料理をすすめる。	<ul style="list-style-type: none"> • 本人が名前を憶えやすいように、何度も言ったり、本人が尋ねてくる質問に1つずつ丁寧に答えたりする。 • 他のクラスに料理をすすめられるように、本人に料理を持って行く役割を頼むようにする。
E	○ゲームに参加したり、調理活動をしたことで「ブータン」という国の名前	<ul style="list-style-type: none"> • 本人が名前を憶えやすいように、本人との関りの中で、何度も名前を言うように

	<p>や国旗を覚える。</p> <p>○他クラスの友だちや指導者に、自分から作ったケワダツィを渡す。</p>	<p>したり、ゲームで「すごいね！正解！」と褒めたりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> •他のクラスに料理をすすめられるように、本人に料理を持って行く役割をあえて頼むようにする。
F	<p>○友だちや指導者と一緒にゲームや調理活動に参加する中で、「ブータン」という国の名前を覚えたり、国旗を覚えたりする。</p> <p>○ケワダツィを食べてみようとする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> •指導者が横について、ゲームに参加しやすい雰囲気を作り、何度も国の名前を言って本人が憶えやすいようにする。 •チーズを嫌がる場合には、まずは本人の好きなご飯から食べるようにする。少しずつダツィを混ぜて渡すようにする。

【本時の展開】

学習の流れ	学習活動	手立て
あいさつ (5分)	<p>○椅子に座って集合する。</p> <p>○日直が挨拶をする。</p> <p>○本時の活動内容を知る。</p>	<p>○自分の座る席がわかるように、各児童の名前を各児童の色テープに書いて、席に貼っておく。</p> <p>○日直が挨拶をしやすいように、指導者(MT)の隣に立つように促す。</p> <p>○何を作るのかが分かりやすいように、テレビ画面に、今日作るものを映す。</p>
ゲーム (25分)	<p>○ブータンについての話を聞く。</p> <p>○国旗カードゲーム</p> <ul style="list-style-type: none"> •カードの中から、指導者が尋ねた旗を当てる。(日本・中国・韓国・タイ・ブータン) <p>○「クイズ」に答える。</p> <p>○次の活動に移る準備をする。</p>	<p>○テレビ画面に、実際のブータンの写真を見せて、イメージが持ちやすいようにする。</p> <p>○全員の児童が取りやすいように、机の上に満遍なくカードを広げて提示しておく。</p> <p>○ブータンに関するクイズをテレビ画面上にだす。分かりやすいように、全て絵や写真をつけて提示する。</p> <p>○次の活動に移ることがわかりやすいよ</p>

		うに、「3、2、1、0…発車!」と合図を出す。
休憩・準備 (10分)	<p>○トイレに行く。</p> <p>○手を洗う。</p> <p>○水分補給(お茶コップ1杯)。</p> <p>○エプロンをつける。</p> <p>○(1年生)台拭きをする。</p>	<p>○トイレから戻ったあと、手をしっかり洗えるように、指導者が一人手洗い場について手洗いを促す。</p> <p>○手がしっかり洗えるように、洗っていない場所を指差ししたり、言葉かけをしたりして伝える。</p> <p>○エプロンがつけにくい場合(ボタン・マジックテープ)は、どこにつけるか・どこを通すのかを本人に伝える。</p> <p>○1年生が台拭きを忘れている場合は、布巾を本人に渡して台を拭くように伝える。</p>
調理実習 材料を切る (25分)	<p>○チームA(C・E)北田T</p> <ul style="list-style-type: none"> ・玉ねぎ・ジャガイモ・トマトをジュニア包丁で切る(4cm幅程度)。 ・切り終わったら、洗い物をする。 <p>○チームB(A・D)中川T</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジャガイモ、玉ねぎをフードカッターで切る。 ・油の敷いたホットプレートに具材を入れる。 <p>○チームC(B・F)平元T</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鶏ミンチをボウルに入れてほぐす。 ・チームAからもらったトマトを、フードカッターで切る。 ・油の敷いたホットプレートに具材を入れる。 	<p>○どのくらいの大きさに切っていいかわからない時は、指導者が材料の大きさを提示する。それでも大きいは、「小さくしてね。」ともう一度本人に材料を渡す。</p> <p>○フードプロセッサが回りにくい時は、途中まで指導者が回し、子どもが回せるようになってから渡す。</p> <p>○まだ切っていないものと、切ったものが分かるように、ボウルを2つ用意しておく。</p> <p>○衛生管理上、肉を触るときにはゴム手袋を着用して行う。ゴム手袋が大きい場合は、手首にゴムを巻いて固定する。</p> <p>※怪我防止のために、包丁やフードプロセッサは指導者が管理。洗う時も指導者が洗う。</p>

<p>調理実習 煮込む (15分)</p>	<p>○指導者（MT）が煮込み方の見本を見せる。牛乳を入れる。 ○一人ずつチーズを入れる。</p> <p>○器に、ごはんと具材を入れる。</p>	<p>○全員に見えやすいように、指導者を囲む形で見えるように促す。 ○友だちの活動が見えやすいように、お互いに見られる場所で活動する。 ○煮込んでいる様子が見えやすように、1つのホットプレートをみんなで囲みながら、1人ずつ並べるようにしていく。 ○怪我防止のため、皿の上に分けるとときには指導者と一緒にフライ返しを使うようにする。 ※子どもがホットプレートを触らないように注意して活動する。</p>
<p>試食 (25分)</p>	<p>○食べる準備（お箸の用意・自分の席の用意）をする。 ○指導者（MT）の話を聞く。</p> <p>○日直が「いただきます。」の挨拶をする。</p> <p>○食べ終わったら、「ごちそうさま。」の挨拶をする。</p>	<p>○食べやすいように、調理器具などは洗い場や給食台の上にはけておく。 ○食べ方のマナーや「いただきます。」「ごちそうさま。」の習慣を再度確認して、お箸で食べるように促す。 ○日直が挨拶をしやすいように「日直さん、お願いします。」と日直の児童に伝える。 ○みんなで一斉に挨拶ができるように、食べるペースを見て、日直に合図を出す。</p>
<p>まとめ (15分)</p>	<p>○食器を片付ける。 ○他クラスにケワダツィを持って行く。 ○あいさつ。</p>	<p>○食器は片付けやすいように、紙皿を使用する。 ○持って行きやすいように、ボウルに2つに分けておく（T）。 ○活動の終わりが分かるように、教室に戻ってきてから挨拶をする。</p>

13. 本時の評価

○ブータンに関するゲームに答える活動や、代表的な料理（ケワダツィ）を作り、食べる活動を通してブータンの食文化について知ることができたかどうか。

○ブータンの伝統的な料理を作って食べたり食べてもらったりすることで、また調理実習をしたいと思えたかどうか。

14. 準備物

【食材】

鶏ミンチ	2	ジャガイモ	6個	油	適量
玉ねぎ	2個	トマト	1個	牛乳	200ml(適量)
とろけるチーズ	2袋	米	4合	鶏肉(モモ)	1

※下ごしらえ…ホットプレートに油をしいておく。米を炊く。ジャガイモの皮をむいておく。鶏肉のモモを切っておく。

【調理器具】

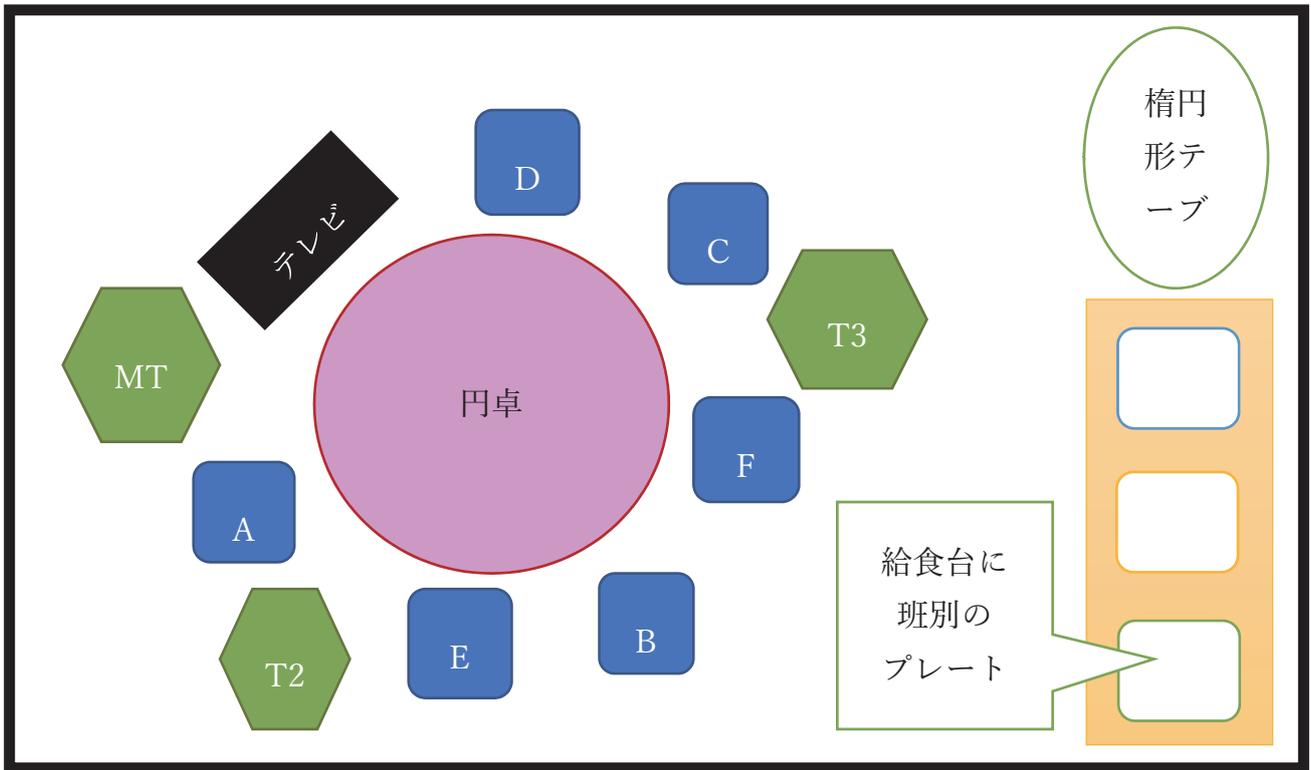
炊飯器	1	しゃもじ	2	皿	15
まな板	3	ジュニア包丁	2	包丁(大人用)	1
ふきん	5	フードカッター	2	ザル(大)	2
トレー	3	スプーン	10	ゴム手袋	3
ボウル(小)	6	ボウル(大)	5	泡だて器	1
ビニル袋小	3	ラップ	1	ホットプレート	1
フライ返し	2				

【ゲームなど】

PC(PP含む)	1	国旗カード	1セット	テレビ	1
民族衣装(キラ)	1	民謡CD	1	カセットデッキ	1

15. 場の設定

(前半：ゲーム～休憩)



(後半：調理中)

